しょうが栽培マニュアル



<令和5産 重点対策ポイント>

- ① 排水性の良いほ場の選定
- ② 根茎腐敗病防除の徹底 (種芋殺菌、定植時の殺菌剤粒剤散布)
- ③ 生育期の適切なかん水管理による芋肥大促進
- ④ アワノメイガ等虫害の防除の徹底
- ⑤ 農薬の使用については、使用基準が変わる可能性があるので、必ず薬の瓶・袋に記載のラベルを確認し、使用基準(品目、使用回数等)の遵守をするとともに、栽培記録簿への記帳。

令和5年4月 アルプス農協管内農業技術者協議会

1 作型

作型	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通	〇 △—— △ 催 定 芽 植			- ▼ 土寄せ 追肥	— ▼ - 土寄せ 追肥	— ▼ — 土寄せ 追肥	[収和	養	
			(防除)	(防除)	(防除)	(防除)			

2 品種

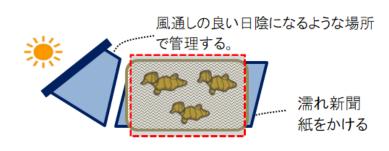
土佐1号: 分茎力の高い。大しょうがであり、多くの県で作付けされている品種。

3 栽培管理のポイント

(1) 催芽処理・種しょうが分割

ア 植付3~10日前まで

- ・種しょうがが届いたら、ザルやプラスチックコンテナなどに並べる。温度をかける事で芽が出やすくなるので、室外で風通しの良い場所に置く。
- ・また、適度な水分も必要となる 為、濡れ新聞紙をかけて水気を与 える。濡れ新聞紙がカラカラに乾 いたら、再度濡らして種しょうが の上にかける。
 - ※直接日が当たる場所に長時間置くと、種しょうがの水分が無くなってしまうので、ハウス内や日陰になる風通しの良い場所で管理する。



イ 植付2日前

一片が80g以上、2~3芽付けた大きさに種しょうがを手で折り、根茎腐敗病予防のために、催芽処理した種にオーソサイド水和剤80を塊茎重量の2%の量で粉衣し、切り口を乾かすために半日陰干しする。病気の感染を防ぐため刃物は使用しない。 ※芽を折らないように注意して粉衣する。

※折り口を重点的に粉衣する。

4 ほ場選定、基肥の施肥

排水がよく、日当たりのよい場所を選ぶ。 周囲にトウモロコシやみょうがのないほ場 を選ぶ。根茎腐敗病の防止のため、連作を 避ける(3年以上あける)。排水性を確実 にしておく額縁排水溝を施工する。

基肥施用量

資材名	1a あたり散布量 kg
牛糞堆肥	200
苦土石灰	10
発酵鶏糞	10
菜種かす	10
硝加燐安 333	2

5 殺菌剤散布

根茎腐敗病予防のため、ユニフォーム粒剤 期土壌表面散布 (収穫 30 日前 3 回以内)

18kg/10a 定植前作条土壌混和又は生育

6 畝立て、定植

畝天板:70~80センチ、畝高:20センチ

畝天板:70~80センチ



先端の芽が潰れている種は、 わき芽が萌芽する。萌芽まで時間がかかるため、深さ、3cmに 定植し土寄せ回数を増やす。 平均気温が15度以上になる5月中下旬が目安。 萌芽まで30日程度かかる。



7 定植直後の土壌処理型除草剤の散布

ゴーゴーサン細粒剤F 4~6 kg/10a 植付後萌芽前 土壌表面散布 1回。

8 生育期の接触型除草剤の散布

萌芽前、生育中に雑草の発生がみられた場合は、しょうがにかからぬようプリグロックス L を散布(プリグロックス L $600\sim1000$ mL/10a(水 $100\sim150$ L/10a)畦間処理:雑草生育期、収穫 3 日前まで 3 回

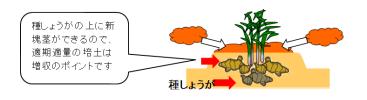
9 ネキリムシ対策

ネキリムシ発生予防のためガードベイト A (3kg/10a 収穫 120 日前まで 株元散布 4 回以内)を定植後に株元散布する。

10 追肥・敷きわら・かん水

- ・1回目は株元に、2回目・3回目の追肥は株元から外側に散布する。(根の張っている方へ)
- ・1回目の追肥後、肥大促進と乾燥防止のため<u>肥料が隠れる程度(2~3 cm)</u>の土寄せと<u>地表面が見えなくなる程度の</u>敷きわらをする。 $2 \sim 3$ 回目の追肥後は、<u>肥料が隠れる程度(2~3 cm)に土を寄せる。</u>※培土量が多くなると、細長くなるなど形状が悪くなるので注意しましょう。
- ・しょうがは乾燥に弱いので、土壌が強く乾燥する前に気温の低い時間帯にかん水する。 8月中旬の生育の目安→草丈80~90cm、茎数約10本/株(草丈、茎数が少ない 場合は、肥培管理、かん水排水管理が適切でない可能性あり)

	時期	資材名	1aあたり 施用量
1回目	本葉5~6枚(7月上旬)		
2回目	1回目の30日後(8月中旬)	やさい燐加 安S540	3+口
3回目	2回目の30日後(9月中旬)		



11 病虫害防除

アワノメイガ 発生時期:7月中旬~



アワノメイガが茎の中を食害し被害部分 の上部が枯れてしまう。 侵入穴が確認で き、周辺に食べかすや糞がついている。

ヨトウムシ類 発生時期:6月·7月



ヨトウムシ類が葉や茎を食害する。被害が荒々しい。

根茎腐敗病 発生時期:7月:8月



菌による感染で株元からあめ色になり地際から倒伏、腐敗部分から容易に抜ける

病害虫名	農薬名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用方法	使用回数
	パダンSG水溶剤	1500倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内
アワノメイガ	アクセルフロアブル	1000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内
	トレボン乳剤	1000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
ハスモンヨトウ	ランネート45DF	1000~2000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内
	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内
根茎腐敗病	ランマンフロアブル	500倍	1~3L/1 m²	収穫30日前まで	土壌灌注	3回以内
除草剤	農薬名		使用量	使用時期	使用方法	使用回数
一年生雑草	プリグロックスL	600~1000mL/10	Da(水100~150L/10a)	収穫3日前まで	畝間雑草茎葉散布	3回以内

12 収穫と貯蔵について

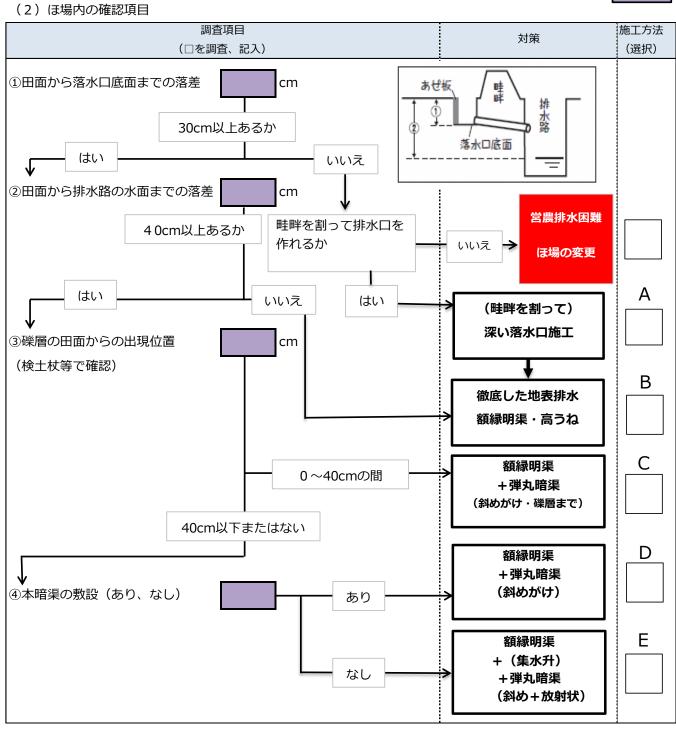
収穫始期は 10 月中旬頃から順次収穫する。収穫終期は、13[°]C以下の低温や降霜で、茎葉が黄化し始める頃が限界(低温で腐敗する)。 収穫方法は、株ごと手で抜き取り、根しようがに茎を $2\sim3$ cm つけて切り取り、根を切り取る(種しょうがとして保存したい場合は、根はそのまま残す。)

→乾かないように、かごやコンテナで広げて、かげ干し(15℃程度が適温)し、水洗いして、出荷時に茎を短く切り取り出荷する。

貯蔵については、掘り取った根しょうがを 20 日間土中に仮伏せし、残った茎や根を取り除く。その後、コンテナに入れ、無病の赤土や砂を塊茎の間に詰め込み、13~15℃の貯蔵庫で管理する。湿度は充填した赤土が 70~80%の土壌水分を保つようにする。

排水対策のための野菜作付予定ほ場調査及び対策早見表 Ver.1.0

1 1	周査日	平成	年	月	日		2	調	查経営体名		
3 🖥	調査ほ場	地番					4	作化	寸予定品目		
	周査項目			法							
(1)	は場局	辺の確認	以具目								
	①作付	予定ほ場	易の湛オ	K田と隣	雄接状況	隣接していない]	隣接している		
	②用水	からの源	水状況	7		漏水はない			漏水している		不耕起 地帯を
	③道路	からの雨	京水の流	充入の同	丁能性	流入はない]	流入の可能性あ	p	作る



排水対策施工方法

